

話の構成を工夫して話すことができる生徒の育成

—構成を可視化する「トークプラン」の活用を通して—

「トークプラン」とは、構成を考えさせるための手立ての中で使用する、構成の変容が可視化できるものである。本実践では、毎時間のプランを保存して変容を見たり、生徒同士で共有して構成を練り直したりするためにICT端末を利用した。

特別研修員 国語 見城 由昭（中学校教諭）
第1学年の実践
単元名「構成を工夫して魅力を伝える」（スピーチ）
指導事項 「A話すこと・聞くこと」（1）イ

生徒の実態

- 自分の考えをまとめて話す活動では原稿が必要になる生徒が多く、目的や条件を意識しながら構成を考えて話すことに課題がある。

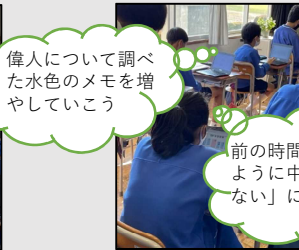
教師の願い

- 目的や条件に合わせて構成を考えさせたい。
- 相手の反応を踏まえて表現できるように、伝えたいことを整理して考えさせたい。

手立て① 構成を練る場面での「トークプラン」の活用

1単位時間ごとに条件（スピーチの時間）と目的（話す相手）を提示し、構成を練る必要感をもたせる

条件と目的に応じてメモを動かしたり、追加したりして、中心的な部分と付加的な部分を決める



偉人について調べた水色のメモを増やしていこう

前の時間のプランと同じように中心部分は「諦めない」にしようかな

今日の条件に合わせて、メモを動かして構成を考える必要があるな

手立て② 相互評価の場面での「トークプラン」の活用

ペアや小グループなどの形態でスピーチを聞き合い、「トークプラン」を基に構成について検討し合う

話の中心的な部分と付加的な部分について吟味し、構成を練り直した上でもう一度スピーチを聞き合う

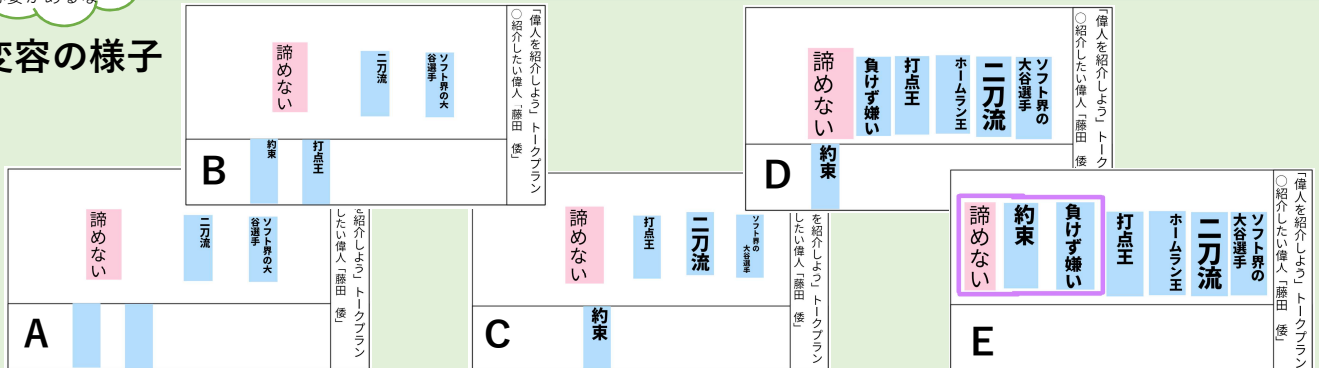


中心部分には自分にとっての課題を入れたり、問い掛けを入れたりしたらどうかな



「約束」のメモに問い掛けを入れて、スピーチの中心部分を困らせておこう

変容の様子



- 目的や条件に応じて構成を考えることができる (A)
- 前時までの「トークプラン」と比較しながら、具体的な説明や例を加えていくことができる (B)
- 色分けによって中心的な部分と付加的な部分を組み立てることができる (C)

- 感じたことを配列したり、文末表現に注意したりして話すことができる (D)
- 相互評価によって互いに検討し合うことができる (D)
- 自分の考えが明確になるように中心的な部分を軸に話を組み立てることができる (E)

目指す生徒像 話の構成を工夫して話すことができる生徒

【成果】

- 「トークプラン」の活用により、メモを動かしながら聞き手の反応を確かめ、スピーチを試行する中で構成の重要性を認識させることができた。
- 前時までの「トークプラン」と比較させることができ、前時までの反省を踏まえて構成を練ることができた。
- 「トークプラン」を用いて相互評価させることで、目的や条件に合っていたか、構成の意図が明確か、など明確な観点をもって検討する様子が見られた。

【課題】

- 中心的な部分が曖昧なまま、メモを思い付くままに並べる生徒がいたため、スピーチの中心的な部分を軸に思考させる工夫が必要である。
- ICTを使って相互評価させる際には、互いの発言や考えを共有したり、生徒同士で「トークプラン」を編集し合ったりするなど、効果的な使い方を考える必要がある。